

群馬大学 女性研究者研究活動支援事業(まゆだまプラン) キックオフシンポジウム

—大学における男女共同参画の促進を目指して—



取組への決意を語る高田学長

男性の参加者が 53 名 (内教授・課長以上の上位職 25 名) となるなど、性別を超えて、男女共同参画や女性研究者支援に関する高い関心が窺え、本学の取組について、広く認識する良い機会となった。

平成 26 年 3 月 10 日、女性研究者研究活動支援事業 (まゆだまプラン) キックオフシンポジウムを、大学会館ミューズホールにて開催した。

本学の「まゆだまプラン」には、蚕をまゆの中で育てるように本学の女性研究者や女子学部生・大学院生をはぐくみ育て、その研究やキャリアが豊かに実るようにとの願いが込められている。事業が採択後、初のシンポジウムとなった。

教職員・学生など約 79 名の参加があり、

講演「女性研究者支援・育成の現状と今後」

独立行政法人科学技術振興機構

科学技術システム改革事業プログラム主管 山村康子氏

この事業の主管で独立行政法人科学技術振興機構の山村康子先生には「女性研究者支援・育成の現状と今後」と題してご講演いただいた。多くのデータを基に展開された女性研究者の現状および女性研究者研究活動支援事業の取り組みとその成果についてのお話はとても分かり易く説得力のあるものであった。その後、本学がこの事業により改善を図りたいとしている 女性研究者の採用促進 (特に理工学部) や在職比率の上昇、女性研究者補助制度や男女共同参画室の有効利用等についても期待を述べられた。



女性研究者支援で得られる成果を語る 山村康子氏

基調講演「女性研究者の活躍と採用・登用のために求められること」

大学共同利用機関法人情報・システム研究機構理事 郷 通子氏

基調講演では大学共同利用機関法人情報・システム研究機構理事の郷通子先生をお招きして「女性研究者の活躍と採用・登用のために求められること」と題してご講演いただいた。郷先生はお茶の水女子大にて学長として女性研究者支援活動に取り組まれた経験を中心にお話された。お茶大では会議などの効率化による9時5時勤務の推進、公募で選ばれたモデル研究者へ



群馬大学の取組にエールを送る 郷通子氏

のポストクまたは支援員の配置など職場システムの改革がワークライフバランスの向上とともに女性研究者の指導的立場への昇進につながったとのことである。また女性研究者の意識改革の重要性についてのお話も印象的であった。女性研究者自身も受け身の姿勢から脱却し、リーダーシップや自分を積極的にアピールする能力を身につける必要性も説かれた。

講演「群馬大学における男女共同参画：現状とこれから」

群馬大学男女共同参画推進室 末松美知子室長



まゆだまプランを語る 末松美知子室長

男女共同参画推進室 末松美知子室長より、学長のリーダーシップで進められている女性研究者研究活動支援事業「まゆだまプラン」についての説明があった。

本学では、群馬大学男女共同参画推進基本計画が既に昨年10月に策定されており、その一環として、女性研究者支援のための研究環境を整え、子育て等のライフイベントとの両立を応援していく。1

月には全学アンケートを実施し、要望を取りまとめた。現在、15名の室員が、広報・ネットワーキング、意識啓発、支援体制・環境整備の3つのグループに分かれて各キャンパスに設置する「まゆだま広場」を拠点に活動を展開していくと語った。



担当の平塚理事による挨拶

シンポジウムの最後に、男女共同参画担当理事の平塚理事よりまとめの挨拶があり、無事、シンポジウムを終了した。

参加者からは「大変有意義だった」、「女性の問題であると同時に男性の問題でもあることを強く意識できた」、「多様性の視点、生活者としての支援をベースに、“まゆだまプラン”を展開してほしい」との声が寄せられた。

茶話会 in レストランあらまき

シンポジウム終了後、レストランあらまきにおいて、茶話会を開催した。講師はじめ、大学幹部の方、室員がお茶を囲んで、和やかに今後の群馬大学における女性研究者支援の在り方について、本音で深め合う会となった。郷通子氏からは、群馬大学の男女共同参画への期待が述べられた。





生き活きと語る 末松美知子室長



司会を務める 永井弥生副室長



質問に応える郷通子氏、山村康子氏



熱心に聞き入る大学幹部



事務補佐員の受付スタッフ



シンポジウムに取り組んだ室員

群馬大 シンポ、理想の働き方探る 女性研究者支えよう



男女共同参画の現状を解説する末松室長

4月から女性研究者の活動支援事業を本格始動させる群馬大は10日、前橋市の同大荒牧

キャンパスでキックオフシンポジウムを開いた。学生や教授約80人が参加し、専門分野で女性がいかに能力を出し切れるかについて考えた。

元お茶の水女子大学長で理学博士の郷通子さんが、組織のリーダーと女性研究者の視点で講演した。ワークライフバランスの観点から活動時間「9時5時」の実現を提唱し、会議を1日に集約する、研究補助員を置く、などの具体的な提案をした。

群馬大男女共同参画推進室長の末松美知子

さんは、4月に女性研究者の憩いの場として「まゆだま広場」を開設することを紹介。「将来的にはベビシッターを入れたい」と意欲を示した。

終了後、郷さんは「女性がリーダーシップを取る姿が今まで少なかった。研究者を支援することでリーダーとなる女性が増えれば、男女共同参画の意識は自然と変わっていく」と話した。

同大の事業は、昨年8月に文部科学省の女性研究者研究活動支援事業に採択され、「まゆだまプラン」の愛称で本格化させる。